

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名
(ユニット名) グループホーム ローズタウン
チェロ

所在地
(県・市町村名) 鹿児島市 下荒田

記入者名
(管理者) 濱田 広人

記入日 平成20年 8月 15日

鹿児島県 グループホームローズタウン チェロ
 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は地域の方々にも伝わるよう、事業所独自の新聞など作成している。		理念については、地域密着型サービスとしての理念ではないように感じている。もっと具体的な理念が必要であると感じる。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有、実践といった取り組みは行っていない。		職員一人ひとり、理念を再度考える時間を作り、理念の共有に努めたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念のわかりやすい具体化が出来ていない。新聞など理念をのせているがそれだけではわかり難いとかんじている。		理念をわかりやすく、具体化し、地域、家族の方々に理解してもらえるよう取り組んでいかなければならない。そのためには、まず職員が理念について考えることが必要になってくると思う。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物などに出掛け近所の方々に入居者さんと一緒に挨拶などかわしている。		散歩、買い物などのときに挨拶する程度である。隣近所の方が立ち寄ることはない。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として職員が様々な地域活動に参加しているが利用者の参加は殆どないのが現状である。		いろいろな地域の活動に参加させてもらっているが一部の職員だけである。参加していない職員もいる。地域交流として利用者の参加が殆どないのでこれからは、利用者の参加を考えていきたい。

鹿児島県 グループホームローズタウン チェロ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々に向けた、わかりやすい介護劇を実施したり、新聞等の内容には暮らしの情報や健康のための情報などを取り入れている。		介護劇や新聞など「わかりやすい」「楽しみにしている」など地域の方からの声も聞かれるのでまずは今の取り組みを継続していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を実施する意義の理解はあまりできていない。		会議、勉強会などで外部評価の結果を検討しそれをケアの実践にどう活かしていくかが大切だと考えている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では職員が気付かないことなどの意見がきかれる。全体会議など利用し職員へ伝えている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは介護相談員の受け入れ、書類上など以外連携はない。		市との連携はほとんどない。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について知らない職員もいる。今現在必要としている方はいないが、必要であれば支援していきたい。		権利擁護に関することは職員も知らないことが多いので勉強会を実施したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、会議などを通し、虐待について考え、日常的に「これは虐待になるのだろうか？」など職員の声が聞かれている。		声掛けひとつで虐待になってしまうことがあるが利用者が傷ついてしまうような内容の声掛けもまだ聞かれる。これからも意識して虐待について検討の必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとって話をしているが家族や利用者が十分に話を出来ているかわからない。		利用者や家族が自由に話を出来る環境づくりを考えていきたい。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で言葉、態度、行動から利用者本人の気持ちに気づくことを職員間で心がけているが特別に機会などは設けていない。		まず、意見、不満、苦情などをほんとうに理解できているか疑問である。自分ではいえない方、言われない方などいると考えられるのでそのような方の理解を考えていきたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の便りを月に一度作成し、担当者ごとに暮らしぶりなど報告している。金銭管理はご家族に出納帳の明示をし、領収書など定期的に確認をもらっている。異動等の報告は面会などの時に報告している。		状況に応じての報告をしているため、良い報告が多くなっている気がする。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	よく面会に来られる家族については意見など気軽に伝えてもらえるようコミュニケーションをとるよう心がけている。また各ユニット入口に意見箱を設置している。		不満、苦情などほとんどないのが現状であるが、不満、苦情など言ってもらえないことが問題であるのでこちらから何か聞かないか聞くことも必要だと考えている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、職員の意見など聞くように心がけているが、運営に関する意見などは言いにくいことがあると思う。意見や提案があったときは反映できるよう検討している。		職員によっては意見など言える、言えないがあると思う。会議などで言う機会はあるが、言える職員と言えない職員がいるため、意見に差がでてしまう。しっかり職員全員の意見を聞いていきたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前にわかっていることは勤務の調整をしている。急な時など調整が難しいこともあるが現状の人数で出来る限りの調整をしている。		調整により一部の職員に負担がかかることも考えられるのでしっかり職員の理解を得てから調整したいと思っている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	急な離職でない限り利用者への対応、業務内容など引継ぎをおこなっている。		職員の交代について、利用者、家族への説明は充分に出来ているとはいえない。利用者へのダメージについては職員全体でしっかり検討し、つとめていく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加、施設内での勉強会を開きトレーニングを進めている。また日頃からわからないことをそのまましておかないことをこころがけ職員同士や上司の意見・アドバイス等受けている。	研修会への参加、施設内での勉強会をこれからも取り組んでいきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での研修会、勉強会、報告会、交流研修への参加など取り組んでいる。	地域の同業者との交流は殆どない。散歩など外出時に挨拶する程度である。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員のストレスや悩み等ないか声を掛け把握するよう心掛けている。勉強会などでストレスがなぜ起こるのか？どうすればいいだろうか？と検討もした。	一人ひとりの悩みなど言えないこともあると思うので日頃から職員とコミュニケーションを図っていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や実績等把握し評価しているが、高いハードルを求め職員がプレッシャーを感じてしまうこともある。	職員のやりがいなど、向上心が持てるような工夫、配慮はしていないのが現状である。何らかの職能評価など取り入れる検討をしていきたいと考えている。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で利用にいたるまでの生活状態を把握すうよう家族、及び本人の思いなどに向き合えるよう心掛けている。	一人ひとりの利用者さんとの信頼関係を作れるように努めているが信頼関係ができていないとは言えない。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態等把握するために、家族から話を聞き、不安なことや、わからないことなど聞くようにしている。	言いにくい事柄などなかなか言ってもらえないこともあると考えられるので聴き方なども考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の支援を見極めるために話し合いを設け、支援に努めている。		本人の支援だけでなく、家族の支援をしっかりと取り組んでいきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方と相談等するが十分には出来ていない。		ご家族の都合などあり、十分には相談できないこともある。本人の思いと家族の思いとのズレもみられるので、そのズレなども家族としっかり相談して取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たずにとりくんでいる。基本的な言葉遣いなど気をつけている。		一方的にケアしてしまっていることもあるように感じる。本人と共に過ごし支えあう関係
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人さんの情報など聞いたり、こちらから本人さんのために協力関係を築けるように努めている。また、行事等の参加の呼びかけもしている。		家族の方の考え方に本人さんの思いとズレがあるので「一緒に」本人を支えていく関係性も大切にして取り組んでいきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人さんからの情報や家族からの情報を把握し、家族との関係性の理解に努めている。		本人と家族の関係性について理解しているが特に支援はしていない。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望がある方については、手紙、電話など支援に努めているが希望がないかたについてはまだ支援できていない。		希望がない方もただ言われただけかもしれない。本人さんの気持ちをしっかり気付けることがまだ十分にはできていないので、まずはきづくことから始めていきたいとおもっている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性は把握できてきているが良い方向に向けての支援に取り組んでいるがなかなか上手くいっていない。		色々な支援を試してはいるがまだまだである。引き続き検討し、試していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要としている利用者や家族に関しては応じている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス、会議などで一人ひとりの思いを共有し、共有に努めている。		思いや意向の把握に努めているが、そのことが困難な状況であっても、思いに近づけているのか検討しながら取り組んでいきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握できている職員もいるが、把握できていない職員もいる。		把握できていない職員は担当の職員から聞くなどして努めてほしい。知らない情報なども家族から聞いたり、日常生活からも見つけていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り、連絡ノートなど使用し、毎日現状の把握につとめている。		把握が上手く出来ていないことがある。把握しているのに連携が上手くいかず職員同士共有できていない、ということもある。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族と話し合いは行っているが十分でない。本人の意見などもまだ反映していない。いろいろな関係者からも意見やアイデアを聞き、とりいれたい。		本人との話し合いだけで作成しているところもあるので家族、職員、そのほかの関係者からなど多くの意見を取り入れていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即して見直しているが、家族、関係者などへの話し合いが十分でない。まだ対応できない変化はない。		対応できない変化が生じた時には、見直しのための機会を設け本人、家族、必要な関係者との話し合いをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、日誌、などの記録の情報を使い、介護計画の見直しを図っているが情報の共有や、介護計画の見直しに活かしてきていない。		現在出来ていないが、情報の共有、ケアの実践、気づきや工夫に取り組んではいるので、これからこの取り組みを介護計画の見直しにつなげていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物内のデイサービスなど交流を図っている。		交流など図っているが、事業所の多機能性を十分には活かしてきていないと感じる。これから事業所内での連携を図り検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	実施していない。		まだ必要性がつかめていない現状がある。これから必要であれば協力していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用支援していない。		まず、地域のケアマネジャー、サービス事業者とのネットワーク作りが出来ていない為、そこから始めていかなければと考えている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働していない。		本人の意向、必要性があれば取り組んで活きたいと考えている。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られたかかりつけ医の受診支援している。またかかりつけ医と事業所の連携を大切にしている。		本人・家族の意向、希望と事業所の方針などズレが生じないように検討し、話し合いを設け、かかりつけ医との連携をとっていきたい。

鹿児島県 グループホームローズタウン チェロ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医としっかり連携を図って支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	普段から、利用者をよく知る看護職員と相談し、健康管理、医療活用の支援は出来ている。		医療活用の支援は出来ているが連携ミスなどに気をつけて支援していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	安心して過ごせるように入院時連絡表を作成し、細かなことまで伝えるよう努めている。		こちらの情報を病院で活かせるように連携を図りたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては職員全員で取り組んでいきたい。家族・医療機関とも連携していきたい。		入居の段階での家族との話し合いはしているが、その時の状態、状況によって、ご家族の希望など変わること考えられるのでその都度話し合い方針を共有することをしたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医との連携を図っているが事前の検討や準備については十分でない。		かかりつけ医とチームとして重度や終末期の利用者の支援に取り組んでいるが検討や準備については出来ていない。まだ職員の経験も少なくターミナルケアについては勉強会などひらいていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前の話し合いを行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		事前の話し合いは行っているが十分とはいえない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけなど職員全員で現在取り組んでいる。	まだまだ言葉かけや対応がきちんとできていない。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃からコミュニケーションをとり、本人の思いや希望を表せるように努めている。また言葉で表せない方などは本人の思いや希望を行動などから気付きを見つけれられるように努めている。	本人の思いや希望を表せていても、気付けないことがある。まず、しっかりと本人の思いを気付けるよう取り組んでいきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少しずつ取り組んでいる。起床時間をずらしたり一人ひとりのペースに合わせるよう努めている。	今までの業務の変更などあり、一人ひとりのペースに合わせることの難しさを感じている。まだまだ一人ひとりのペースに合わせることは充分には出来ていない。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望がある方については希望の美容室などについている。	身だしなみ、おしゃれについては職員が服を選んでいたり、支援が充分でない。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備や、片付けなどしている。毎回の食事量、食事時の情報など会議を通し職員で話し合い楽しみになるよう努めている。	食事の準備など一緒にすることによって「あの人は嫌だ」など入居者同士の関係性もあるので、一概には一緒にすることが楽しむことにつながるとは考えていない。一緒にするのではなく、自分からできるように支援していきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みのものを食べたいという希望を聞いたりしている。外食など使い楽しめるよう支援している。	お酒、タバコは日常的に楽しめるようにはなっていない。かかりつけ医との連携を図り、支援していければと考えている。

鹿児島県 グループホームローズタウン チェロ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗などしないよう時間を決め、誘導、声かけなどしている。しかし誘導、声かけは、失敗は少なくなるが気持ちよい排泄とは違うと考えている。		一人ひとりの気持ちの良い排泄とは何かを考え、取り組んでいきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めている。本人さんに希望を聞いていない。嫌がられる時は時間をずらしたりしている。		入浴日の希望をとり見直して行きたい。好きな時に入れるような
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して休むために一人ひとりその状況に合わせて支援している。また日中の過ごし方なども考えて支援している。		日中の過ごし方や一人ひとりの状況に合わせて支援しているがまだ夜間眠れないなどあり色々支援中の方もいる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの役割、楽しみを検討したり、支援している。		昔と違い「出来ない」「今はもうしないよ」など言われ難しい面もあるが、これからは色々なことに取り組んでいきたい。「出来ない」こともあるが前向きに考えていくことが大切であると考えている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に食事の準備や、片付けなどしている。毎回の食事量、食事時の情報など会議を通し職員で話し合い楽しみになるよう努めている。		本人が持っていて自由に使える支援に取り組んでいきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩など出掛けている。外出や外食なども計画を立ててなるべく多く出るように支援している。		計画を立てなくても希望があれば外出できるようにしているが無理な場所、時間帯などある。その時の対応など考えていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別には行けることもあるが、他の利用者や、家族と共に出かけることはしていない。全体では希望があったので、家族も参加してもらい水族館にいけた。		希望があれば計画していけることもあるが十分でない。今会議等で検討し、今度から機会を作り、支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方については、定期的に電話をしたり、手紙を出している。		希望がない方については特に支援していない。希望を聞けていないだけかもしれないのでそこから支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設の入り口玄関の鍵、エレベータ前の廊下など、作品など飾りつけているが建物の構造上冷たく感じる。いつも来ていただくご家族は気軽にきて頂いているが、初めて来られる方は少し入りにくい感じがすると思う。		面会に来られる方々について気軽にきて頂けるよう声かけはしているが特に居心地よく過ごせる工夫はしていない。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに勉強会会議等で検討し、取り組んでいるが具体的な行為については、まだ正しく理解していない職員もいる。		勉強会などで、定期的に身体拘束についても検討し、正しく理解していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中も鍵がかかっている。入居者の中には、鍵がかかっていることで安心される方もいる。逆に鍵がかかっていることで戸惑うというかたはほとんどいない。外に出たいときはドアを開け外に出てもらっている。居室については鍵をかける方はいるが職員が鍵をかけることはしていない。		玄関の鍵をかけないケアについては防犯上取り組んでいない。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は入居者の所在、様子を把握できるよう職員で連携を図り職員同士で声掛けに努めている。居室へ入室する際本人への声かけをすることをしている。夜間については安全確認、状態確認のために居室をのぞくことはしている。		日中居室へ入室する時は本人へ確認を取っているが、出来ていなく入室していることも見られる。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を防ぐため注意の必要な物品については、本人に話し合いを持ち、職員で管理している。また一人ひとりの状態に応じて職員が見守ることに努めている。		あまり注意の必要な物品はないのが現状である。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせ事故防止に取り組んでいる。事故報告書は全員で確認している。ヒヤリハットも記録を確認し事故防止に取り組んでいる。また勉強会を開きも事故防止のために取り組んでいる。		取り組んではいるが十分でないと感じている。一人ひとりの状態を記録等からしっかり把握することから職員全員で取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会等で、学んではいるが、訓練はしていない。急変や事故発生時はかかりつけ医に連絡し指示をもらっている。		初期対応など職員によっては出来ない職員もいるので定期的に訓練等行っていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署に避難方法やアドバイスをもらい訓練を定期的に行っている。またマニュアルなど作成し、職員全員が避難方法を身につけるよう取り組んでいる。		避難訓練前は回覧板等回し、地域の方にも参加を呼びかけているが参加される方は少ない。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスク対応については、本人、家族、かかりつけ医との連携を図り取り組んでいる。		取り組んではいるが十分でないと感じている。一人ひとりの状態などもあり難しい問題なので、慎重に連携を図り取り組んでいきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、介護日誌による申し送りによる情報の共有に努め、一人ひとり体調の変化などに気をつけて対応している。		申し送りなど情報の共有に努めて体調の変化など気付きが来てきているが対応が上手く結びつかないことがあるので職員全員で早期発見と対応に取り組んでいきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり薬手帳や、薬の説明書を処方ごとにファイルし、目的、副作用、症状の変化の確認に努めている。また用法や用量など細かい指示があるときなどは、連絡帳なども活用し把握できるよう努めている。		服薬の支援は十分に出来ていると思うがやはりミスが起こることがあるのでそのミスをなくしていかなければいけない。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表など活用し、排便状況の把握をしている。また、かかりつけ医との連携を図り、予防や相談、対応、飲食物の工夫をし、また、運動など身体を動かす働きかけに取り組んでいる。		職員の中には便秘の原因や及ぼす影響を理解しきれていない職員もいる。一人ひとりの状況や状態で便秘になってしまうこともあるのでしっかり理解してほしい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週に一度の洗浄、毎食後の口腔ケアの声かけ、口腔ケアを一人ひとりの状態にあわせ支援している。		出来ることも介助してしまっていることもある。出来ること、出来ないことの把握に努め支援していきたい。

鹿児島県 グループホームローズタウン チェロ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時に食事量、水分量をチェックし確保できるように取り組んでいる。		栄養摂取のため、「食べよう!!」と強く声かけしてしまうことがある。あまり食べないかたの支援を考えていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成し、予防や取り決めをし、実行している。		予防や感染症の取り決めはあるが忘れてしまうなどあるので職員ひとり、ひとりがしっかり確認してほしい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い、うがいの徹底、食材は出来るだけ使い切る分だけ買うなど取り組んでいる。また調理器具は乾燥機など使い管理している。		利用者が調理器具、皿など洗う時に洗い残しなど見られるのでその後の支援に取り組んでいきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	交通の便などよく、出入りはしやすい。建物周辺には、小さな花壇などがあり、いつも花を植えている。		建物内に入ると構造上冷たい感じがする、暗い感じがする等言われることがある。地域、家族などに向けた介護教室、もようしを開き親しみやすく、安心して出入りできるようにしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の取り入れをしているが生活感がまだ十分でない。		職員の価値観にならないように気をつけて居心地良い空間作りをしたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で一人になれるような場所はない。思い思いに過せる空間としては居室になる。		共用空間における一人ひとりの居場所づくりとしては、特に工夫していないが、手伝いなど、一人ひとりの役割としてしてもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを持ってきているが、それだけで居心地よく過せることはない。現段階ではただ持っているだけになってしまっていることがある。		使い慣れたものや好みのものを活かしてきていない。本人が居心地良いようにするために、そのものを活かすことに取り組んでいる。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、温度調節はしっかり配慮している。		外気温との差は、外が暑すぎたりするため差が生じてしまう。温度調節はこまめに行っているが職員の感じる温度で調節していることもあるので気を付けたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を把握し、出来ることはしてもらおう取り組んでいる。その日その日の状態などを配慮し、ケアに取り組んでいる。		本人が出来ることまで職員がしてしまうこともまだよく見られるので、会議等含めしっかりと一人ひとりの状態を把握することが必要だと感じている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を防ぐように工夫しているが状態によって分かる力も変わるのでそのときの対応など工夫している。		工夫はしているがまだ充分でないと感じている。もっとコミュニケーションをとり、一人ひとりの分かる力の引き出しかた、方法など知ることが必要だと感じている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	小さなベランダであるが花を植えたり、野菜を作ったりしている。外周は活動できるような場所はない。		特定の利用者さんだけがされているので他の利用者も楽しめるように支援していきたい。

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

鹿児島県 グループホームローズタウン チェロ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

まだまだ十分でないことが多いと感じていますが、一人ひとりの気持ちを気付けるケアを目指しています。そして利用者が安心して利用でき、利用者さんとの信頼関係も良い方向に向き、今まで以上により良いグループホームになるのではないかと考えています。アピールしたい点は、職員一人ひとりがしっかりと利用者さんのことを考えているという点です。まだまだその思いがケアに繋がっていませんが、これからこの思いをケアに繋げていけるように取り組んでいきたいと思っています。また、その思いが「利用者本位」から職員本位にならないよう取り組んでいきたいです。